
Office 365 テナント移行ガイド

はじめに

過去 10 年における移行プロジェクトは、オンプレミスのシステムやアプリケーションからクラウドへの移行が主流でした。初期のデータ移行はメールのみでしたが、次第にドキュメントやファイル共有へと拡大していきました。Office 365 や G Suite といったクラウド型オフィススイートは、移行サービスにおけるこうした変革を推進し続けています。Gartner は、「2021 年までに [ビジネスユーザーの 70%以上が実質的にクラウドオフィス環境を利用することになる](#)」と予測しています。レイトマジョリティ（後期追随者）が Office 365 を導入するようになり、市場におけるシェアが拡大し続ければ、Office 365 における「テナントからテナントへの移行」（「T2T」）といったクラウドオフィスからクラウドオフィスへの移行も必然的に増加することになります。

Office 365 テナント間の移行は、合併や買収、売却、大規模な社内再編などの重要な事業改革において必要となることが多いです。テナント間でユーザーとデータを移行する手順の多くは、従来のオンプレミスからクラウドへの移行手順と同じですが、テナント間の移行に関して特別な考慮を要する事項もあります。

本ガイドは、Office 365 テナント移行プロジェクトの必要性が生じた場合に、プロジェクトオーナーとステークホルダーが初期の段階で検討すべき事項を提示することを目的としています。技術計画リソースや移行に関するステップバイステップガイドの詳細については、本ガイドの巻末に記載されている「その他のリソース」セクション、または [BitTitan Help Center](#) をご覧ください。

現環境を把握する

「念には念を入れよ」ということわざがありますが、これはあらゆる移行プロジェクトにも当てはまります。データを移行する前に、移行元環境の現状とデータを正確に把握しましょう。移行プロジェクトを成功させるためには、担当チームメンバーが、以下の項目を含む全体像を把握しておく必要があります。

- 設定と権限を含む全ユーザー情報
- 各ユーザーのメール仕様
- 作成された全グループと、各グループのメンバー

- 現在導入しているすべてのアプリケーション（各アプリケーションを使用しているユーザーおよびグループ、更新が必要なアプリケーション）
- 全データエンティティ（保存場所、各データを使用しているアプリケーションとその目的、アクセス頻度、サイズ）
- 各データエンティティのバックアップ方法とバックアップ先

移行先環境の将来像を描く

移行元環境の状況とビジネスニーズに基づいて、移行先環境でのデータの在り方を明確にしましょう。データ移行には、ITとアプリケーションの大規模な変革を伴います。

Officeスイートの新しいツールやアプリケーションを導入する、より良い職場の実現と保護のためにガバナンスポリシーを改定する、または単に従来のプロセスから新しいプロセスに移行するなど、その変革内容にかかわらず、移行の準備フェーズで組織とそのデータ、アプリケーション、およびプロセスが移行先でどのように機能するかを検証し、全体像を把握しておく必要があります。

また、移行元に残すことができるデータも確認しましょう。組織の全データを移行する必要はありません。財務、法務、人事などの一部の部門では、コンプライアンス上の理由により長期にわたって記録を保持しなければならない場合がありますが、一般の従業員は、3年以上前のメールにアクセスする必要はないでしょう。

ほとんどアクセスされることのない古いデータは、アーカイブなどのニアラインストレージに移行する必要があります。特定の日付より前のデータや、ほとんど使用されていないデータについては、完全にオフラインのメディアに移行することができます。移行作業全体のデータの棚卸し評価の際には、上記の項目を必ず確認してください。

また、この準備フェーズでデータを「クリーンアップ」すれば、データ移行に伴うリスクを軽減し、移行作業に要する時間を短縮できます。サイズが膨大なメールボックスや複雑で重いファイルツリーは、移行作業中のエラーの原因となることが多いです。移行元環境とサイズの大きいメールボックスを整理することで、移行プロジェクトに要する時間や労力、トラブルを軽減することができます。

ドメイン名を変更するか否かを決定する

ほとんどの企業は、ウェブサイトやメールアカウントなどのインターネットアクティビティに使用する独自のドメイン名を所有しています。例えば、BitTitanのドメイン名は bittitan.jp です。

2つ以上の企業が合併した場合、経営陣は、どのドメイン名を新しい企業に使用するかについて協議を行います。買収された企業が長期にわたって自社のドメイン名を引き続き使用することもあり

、その場合には移行作業は必要ありません。両社の Office 365 テナントは、そのまま単独で稼働し続けます。

それ以外の場合は、両社が経営統合し、全く新しい企業を立ち上げることとなります。この場合、既存のドメイン名は使用されません。どちらの合併シナリオを採用するかによって、移行プロセスは大きく変わってきます。

テナントからテナントへの移行 - 既存のドメイン名を維持する場合

すべての Office 365 テナントは、「onmicrosoft.com」ドメインのユーザーIDを取得します。また、「onmicrosoft.com」の代わりに、「bittitan.com」のような独自のバニティドメイン名を割り当てることも可能です。移行元と移行先のテナントはどちらも、バニティドメイン名が割り当てられる可能性が高いです。

既存のドメイン名のどちらかを維持すれば、テナントからテナントへの移行が容易になると思われるかもしれませんが、一方のバニティドメイン名「@tenant.onmicrosoft.com」を、もう一方の（維持する予定の）ドメイン名に変更すればよいのです。しかし、Office 365 では1つのバニティドメイン名を複数のテナントに割り当てることができないため、上記の方法を行うことができません。

Office 365 では、移行元テナントのすべてのアカウントのドメイン名「@tenant.onmicrosoft.com」に変換されます。つまり、「fred@bittitan.com」は「@fred@bittitan.onmicrosoft.com」に変換されます。次に、「受信者アドレスのマッピング」が実行されます。このプロセスにより、移行作業の完了後に、移行されたすべてのメールは引き続き返信可能になります。BitTitan の DeploymentPro などのツールを使用すれば、新しいテナント上のすべてのアカウントを適切に構成、維持することができます。

移行元テナントのユーザーアカウントは移行先テナントに追加され、メールアドレスは「onmicrosoft.com」から移行先のバニティドメイン名に変更されます。

カットオーバー時に、移行元テナントのバニティドメイン名が削除され、移行先テナントのバニティドメイン名に照合されます。

テナントからテナントへの移行 - ドメイン名を変更する場合

全ユーザーを新しいドメイン名に移行する場合、カットオーバー時のプロセスが既存のドメイン名を維持する場合と大きく異なります。

ドメインネームサービス (DNS) は、ドメイン名とインターネットプロトコル (IP) アドレスを関連付けて管理するシステムです。新しいドメインが追加または変更、あるいは MX レコードなどの記録が変更された場合、DNS は該当するグローバルネットワークに変更を通知しなければなりません。新しい情報をすべての DNS サーバーに転送するには、かなりの時間を要します。

また、新しいドメイン下で新しいメール交換サービスが導入されるので、DNS は通知を行っている間に他のサーバーとメールを交換することができない可能性があります。勤務時間外にこのプロセスが実施されるようにスケジュールを組むとともに、このプロセスによる遅延発生の可能性を、全ユーザーに通知する必要があります。こうしたダウンタイムが発生する可能性は極めて低いですが、万一に備えて対策を講じましょう。

ソリューションを決定する

移行前の評価が完了し、移行計画を決定したら、移行プロジェクトの実行に役立つソリューションの評価を開始します。Microsoft のファーストパーティソリューションは、他のサードパーティソリューションと同様に、移行の一部のプロセスをサポートします。以下に、これらのツールを評価する際の留意点を示します。

- **セットアップと設定:** 移行プロジェクトのセットアップと設定に自社のチームが要する時間はどれくらいですか？移行元環境に他のツールをインストールする必要はありますか？あるいはソリューションはすべて SaaS 型ですか？認定資格、トレーニング、または追加のプロフェッショナルサービスが無くても、自社のチームでこの設定を行うことができますか？
- **データ移行速度とテスト:** ユーザー数とデータ量に基づいた、移行作業の予想所要時間はどれくらいですか？実際のプロジェクトを開始する前に、仮想ユーザーによるテストを実施し、すべてのスクリプトが正常に動作することを確認できますか？
- **セキュリティ上の懸念事項:** エンドユーザーのデータを保存しますか？移行作業をサポートするために、どのようなインフラが導入されていますか？データは送信中に暗号化されますか？
- **サポートの拡張性:** 使用するソリューションは、大規模な長期プロジェクトに対応するために拡張可能ですか？必要に応じて、2つのテナント間における共存は可能ですか？PowerShell SDK を使用して、移行プロセスの一部をカスタマイズしたり、スクリプトを実行できますか？

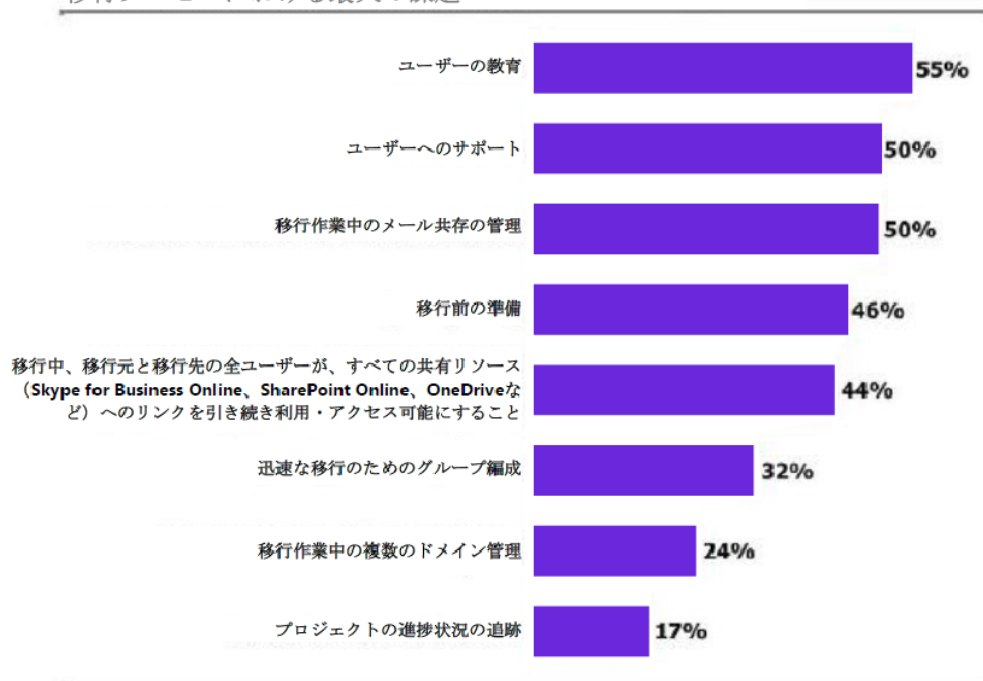
テナント間のデータ移行を成功させるためには、データ移行の実行に使用するソリューションについて、チームメンバー全員が十分な知識を有し、自信を持って実施する必要があります。移行準備の一環として、IT 部門に対して、採用したソリューションに関する研修を行いましょ

う。サードパーティソリューションを選択した場合には、ベンダーを通じて利用可能なサポートの選択肢を把握しておくことも大切です。移行作業中に何らかの問題が発生し、チーム全員がトラブルシューティングのサポートリソースにアクセスできない、あるいはサポートを利用できない、といった最悪の状況を回避しなければなりません。サポートの選択肢を確認し、必要に応じて追加サポートを賢く活用しましょう。

計画段階でエンドユーザーを関与させる

Osterman Research が 2018 年に実施した調査（主催：BitTitan） では、MSP 事業者にとってデータ移行における最大の課題は、ユーザー自身へのサポートと教育であることがわかりました。移行作業中におけるエンドユーザーのダウンタイムと混乱を抑制することが優先事項である場合、移行プロジェクトを成功させるためには、エンドユーザーに求められる知識や対応を概説したコミュニケーション計画を策定することが不可欠です。

図1
移行プロセスにおける最大の課題



出典：Osterman Research, Inc.

BitTitan のパートナー技術戦略担当者は、移行完了予定日を起点に日付を遡るようなコミュニケーションプランを提案します。プロジェクトオーナーまたは社内の IT 部門からエンドユーザーへの情報提供を円滑に進めることで、すべてのステークホルダーによる移行準備をサポートし、移行元で必要な準備作業を迅速化することができます。全ユーザーが同時に移行されるとは限りません。そのため、段階を追った適切な回数でコミュニケーション計画を進めていく必要があります。

以下に、コミュニケーション計画の一例を示します。

- **30～45 日前:** 移行を円滑に進めるために、ユーザーに知らせるべき情報や、ユーザーがローカルマシン上で実行すべき操作をまとめます。移行前評価で、必要であると判断された単発作業を処理します。
- **14 日前:** 移行前に作業を完了する必要のあるユーザーに対してフォローアップを行います。予定されているダウンタイムやサービスの中断に関する通知を、ユーザーのメールシステム上で設定します。
- **3 日前:** アクセス可能または不可能な日時について、詳細情報をユーザーに提供します。移行完了後にユーザーが移行先で実行する必要がある操作について、ユーザーに通知します。

また、移行前のテストでは、移行作業中のエンドユーザーのエクスペリエンスの状況を確認してください。モバイルデバイスやデスクトップ上で、どのようなメッセージまたは警告を表示させるかを検討します。実際のカットオーバーがスムーズに進むように、テスト結果に基づいてユーザーからの質問を予測し、問題を修正します。

その他のリソース

本ガイドは、テナント移行の初期の計画段階で検討すべき事項を提示することを目的としています。以下に、テナント間の移行プロジェクトおよび MigrationWiz に関するその他のリソース（技術移行ガイド、デモ、オンデマンドウェビナーなど）のリンクを提示します。

- [移行ガイド：Office 365 テナントの移行 - ドメイン名を変更する場合（英語）](#)
- [移行ガイド：Office 365 テナントの移行 - 既存のドメイン名を維持する場合（英語）](#)
- [オンデマンドウェビナー：Office 365 テナントからテナントへの移行ガイド（英語）](#)
- [デモ：Office 365 テナントの移行 - 既存のドメイン名を維持する場合（英語）](#)
- [ウェブページ：BitTitan の Office 365 テナント移行サービスについて（英語）](#)
- [オンデマンドウェビナー：Office 365 テナントの移行と共存に関するヒント（英語）](#)

Office 365 テナントの移行と MigrationWiz に関するご質問は、[BitTitan までお気軽にお問い合わせください。](#)